



研究通信

2026.7.9

No. 2

発行者 河田直哉

わからん！わかった！！面白い！！！！

～学びを生かす3Cの授業の創造～

4年生 研究授業・研究会

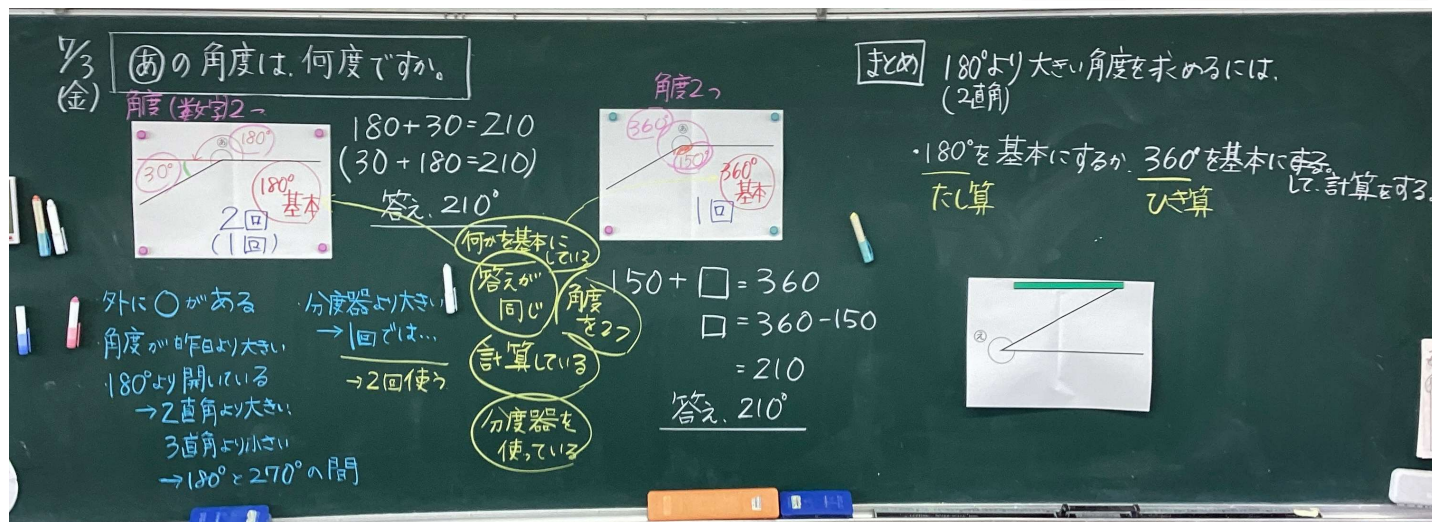
▽日時 令和8年7月3日(金) ▽授業者 和志武 玲子

▽学年 第4学年1組

▽単元名 【角の大きさを調べよう】

▽単元で生かす中核的な内容

「量を共通の単位を用いて数値化することで、比較・再現したり、計算したりすることができる。」



授業者・学年より



授業者

普段から子どもたちの「わからない」を大切にしてきた。教師から教えるよりも、子どもたちが「自分の力で説明していく」「わからないときは友だちに聴いたら良いんだな」というところを大事にしてきた。しかし、予定通り進まない。今日も時間がかかってしまった。また、キーワードを出してくれるのは得意な子。苦手な子たちがその子たちの発言を支えに気づいていけるような学びもある。どんな学び方がよいのか？

"0°マン"は、思うようにいかなかった所も。しかし、量感を身につけることは重要。測れる、描けるが大事。今後の図形の勉強に欠かせない。

特に分度器を扱う場面では、「量感」を捉えるのが難しい。実態として、60°の角度も向きが変われば120°と答えてしまう子が多くいた。

書いたあとに問返せば「違ってる」と気づくが、直線に合わせた目盛の数字しか見ておらず、角の開き具合を意識していない。メモリを読むだけの作業になってしまっている。開き具合をしっかりと意識できるように、「0°マン」の取り組みを進めていくようにした。高学年での学びに繋いでいけるよう指導を進めてきた。



学年

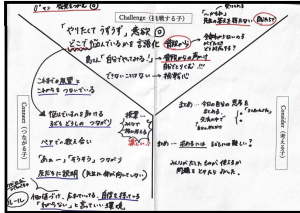
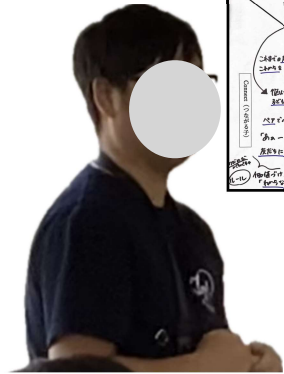
各学年より

Aグループ

子どもたちの「挑戦したい！」を引き出す関わり

授業冒頭から「やりたい！(Challenge)」と身を乗り出す子供たちの姿に、私たちも圧倒されました。自分の困り感を言葉にできる力や、粘り強く自力解決を目指す姿勢は、日頃の先生の温かい学級経営があってこそだと感じます。

協議では、最後の「まとめ」について、計算方法を整理するのか、思考の過程を記述するのか、子供たちがより迷わず書けるようにするための焦点化について、一緒に考えていきたいという意見が出ました。



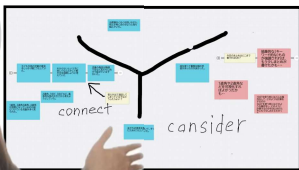
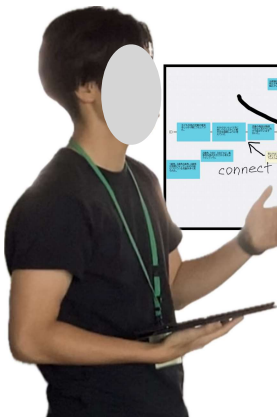
Bグループ

「わからん！」を「わかった！！」に変える、温かいクラスの絆

安心して「わからん！」とつぶやけるクラスの雰囲気 genuinely 素敵で、私たちも大変勉強になりました。早く解き終えた子が仲間に一生懸命説明しようとする姿も印象的でした。

協議では、問題が解けたの児童が「お客さん」にならずに学び続けられる次の一手や、180度や360度を基準にする操作を、より丁寧に式と結びつける手立てがないかということについて話し合いました。

授業づくりのヒントをたくさんいただいた時間でした。

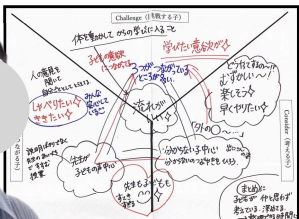
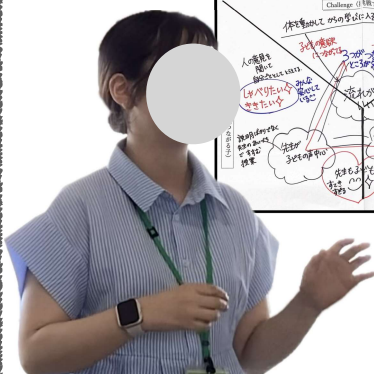


Fグループ

一人ひとりの「つぶやき」を意味づけるコーディネート

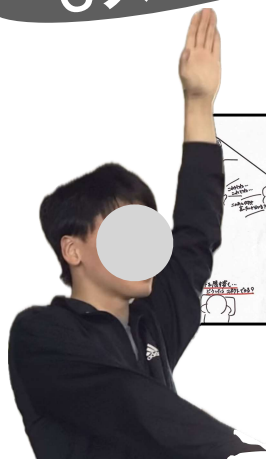
体を動かす導入でリラックスさせ、学びに向かわせる流れがとてもスムーズでした。「難しそうだけどやってみよう！」という前向きな**Challenge**の言葉を引き出し、子どもたちの小さなつぶやきを逃さず拾って全体に繋いでいく**(Connect)**先生のコーディネート力が光っていました。

終盤のまとめで、子どもたちの多様な気づきを算数的な概念へとどう収束させていくかという点は、私たちにとってもこれからの授業づくりにおける大切なテーマとなりました。



Cグループ

量感を大切にした、これまでの積み重ねが光る授業



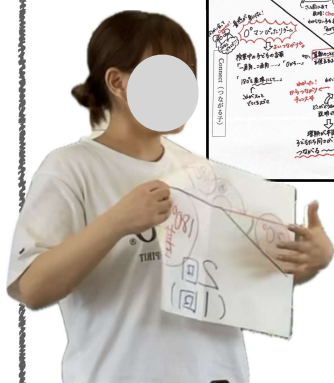
「0°マン」を通じた量感の育成が、高学年まで繋がる素晴らしい活動だと話題になりました。3年生までの学びを土台に**(Connect)**、素直に意見を交わせる子どもたちでした。

協議では、特定の児童だけでなく全員を思考の土台に乗せるための問いかけや、iPadで図形を動かして視覚化する工夫など、さらに学びを深めるための仕掛けについてアイデアを出し合いました。

子どもたちが「先生と一緒に勉強したい!」という思いに溢れた、素敵な授業でした。

Dグループ

子どもたちの自信を育み、思考を揺さぶるしかけ



「0°マン」で子どもたちが自信を持ち、「○直角」などの言葉を自然に使っている姿に感銘を受けました。

分からない子がいる場面を「**Connect**のチャンス」と捉え、どうすれば全員を思考の土台に乗せられるか、クラスとしてのあり方を再確認できました。また、あえて図形の一部を隠して提示し「測りたい!」という意欲を揺さぶる工夫など、基準となる角度への気づきを促すための具体的なアイデアも共有され、私たちにとっても大きな刺激となりました。



【●】

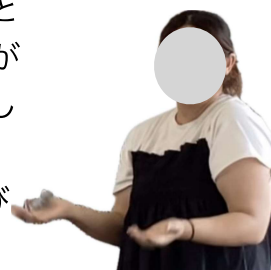
計算によって角度を求めるという「数値化」の意義に、子どもたちが自ら気づいていく過程に深い学びのシーンを見ることができました。

まとめの場面では、教師が上手くリードしながらも子ども自身の言葉を大切に残そうとする姿勢に、和志武先生の思いを感じました。

また、今回の協議会で私たちが「**3C (Consider, Connect, Challenge)**」の視点を持って授業を語り合えたことは、今後の校内研究の大きな一歩になると確信しています。

先生のこれまでの関わりが、これほどまでに子どもたちの姿を変えるのだと改めて実感しました。特に、一生懸命に説明する児童の「キラキラした顔」が印象的で、クラス全員がそんな表情になれる授業を目指したいと強く感じました。

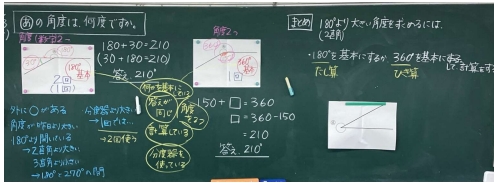
この3ヶ月間、先生が丁寧に築き上げてきた学級の土台の上に、今日の学びがさらに積み重なった感覚がありました。ありがとうございました。



【●】

石井敬介先生 より

▼本時について



- ◎何でも吸収して一生懸命な4年生！
- ◎先生に応えようとする子たち！
- ◎授業に正解はない！自分のやり方を！



まとめとふりかえり

まとめとは、

「自分がどんな方法で考えたかということ自分の言葉で書く」ということ。

ふりかえりは、

「自分がその授業でどう感じ、次にどう生かしたいかを表す」ということ。

今日の授業は"知識"というより「自分はどのように考えたか」を言語化することが大事な時間だった。

だから、もし"まとめ"を書くなら、和志武先生の板書の通りで良いと思う。

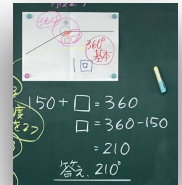
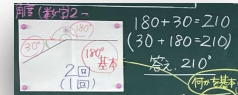
角の大きさを回転の大きさとしてとらえる

角度において、体で**実際に体感**することはとても大事。**"0°マン"**はとてもピッタリな取り組み。



子どもたちの「見方・考え方」はどう動いたか？

- ①「足し算（180度+○）」で考えた子の姿
- ②「引き算（360度-○）」で考えた子の姿
- ③手が止まっていた子への支援（クラス全員で支援）



指導案には「補助線を引く」という支援が書かれてあったが、
今回はクラスの**全員で支援をする姿**や、先生の**丁寧な机間指導**があり良かった。

学年を往還する系統性

子どもが前向きになるような
言葉のシャワー

2年生・・・直角の考え方が初めて出てくる。

3年生・・・二等辺三角形や正三角形に関わって大きさが同じ大きさ。

4年生・・・角の大きさの単位「度(°)」を用いて、図形を考察する力を育成。



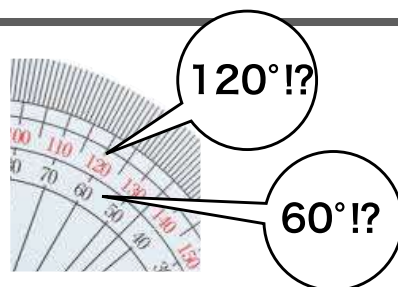
子どもたちがどこにつまずいているのか。
今までにどのような学びをしてきたのか。などを見
取るためにも、**Challengeチーム**が配布してく
れた「**系統表**」が活用できる！

石井敬介先生 より

▼明日から使えるワザ！

計測の前に見通す！

「これって90°よりも大きいのか？小さいのか？」
「180°より・・・？」とする事によって、



分度器での計測結果と見通したことの差に気づき、間違いを減らすことができる。

前向きになる言葉のシャワー！

- ・「1回やってみ！」
- ・「気持ちわかる？」
- ・「納得？」
- ・「どういうことと言えることはすごいこと」

めっちゃええやん!!

自信がなかったり苦手だったりする子にとって、
先生の声かけが背中を押す事になる。子どもの安心に繋がる。

量感を捉えつつ、自分ごとに！

2

6.3m
この

※画像を加工しています

こんなん
持ってるんです。

6.5m
作ってみて！

日直の〇〇さん、
学校から2.4km！

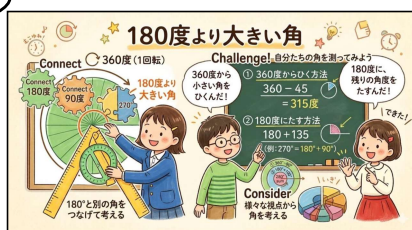
学校から2.4kmって
どのあたりやと思う？

AIで作ってみました！

地図上に千里新田小学校から指定の距離（約1.8km、2.4km、3.6km、4.8km）にある主な場所を表示しました。スクロールや拡大縮小をして位置関係をご確認ください。

距離ごとの主な場所

- 1.8km圏内：江坂公園 / 万博記念競技場付近
- 2.4km圏内：扇部緑地 / 大阪大学 吹田キャンパス
- 3.6km圏内：千里中央駅 / 東淀川駅付近
- 4.8km圏内：新大阪駅 / みのおキーズモール



- 教科書に出てくる数値を実際に子どもたちに作らせてみたり、予想させてみたりする。そうすると、量感を養うだけでなく、協働的な姿も生むことができる！
- 授業の中身で勝負するのも大事だけど、授業の入り口をちょっと工夫するだけで、子どもたちの「やってみたい！」「考えてみたい！」に繋がる！
- AIの活用も有効。教師が調べなくてもすぐネタを作ることができる！

TM担当者 より

4年生の先生方、学期末のお忙しい時期の研究・提案、ありがとうございました！！

「角度」は図形領域であります。2年生や3年生で学んだ「長さ」「かさ」「重さ」のような測定領域での学びも大きく関わってきます。量の大きさを共通認識できるよう単位を獲得し、更に数値化を伴うことにより、再現したり計算したりすることができます。

4年生の先生方は、「**量を共通の単位を用いて数値化することで、比較・再現したり、計算したりすることができる。**」という内容を単元の中核とし、今回の授業提案に挑まれました。

前回の6年生の研究授業同様に、**深い教材研究**を経て授業づくりをされたことで、授業における**子どもたちの言動に意味や可能性を感じることができるのだ**なと感じさせられました。

これこそ、「**Challengeの場**」の設定条件なのだと思います。

和志武先生のたくさんの素敵な言葉がけにより、実際に動き出す子どもたちを観させていただいた今回の授業でしたので、その「言葉がけ」が話題の中心となりました。

なぜ、子どもたちを突き動かす「言葉がけ」があんなにも多くみられたのでしょうか？

それはひとえに、和志武先生と4年生の先生方の**教材に対する理解と、子どもに対する理解**があったからだと思います。

あまり教材を考えないままに授業をしてしまうと、「何を言ってるの？」「何をやってるの？」「関係ないこと言わないで〜…」などと感じてしまうことがあります。これでは教師の思う通りの授業展開でしか進めることができません。

しかし、前回の6年生の授業や今回の4年生の授業では、「**子どもたちの思考に寄り添った展開**」をされていました。これは、**子どもたちの言動に意味や可能性を感じることができるほどに、教材と子どもを理解されていた**からだだと思います。

このように考えると、教師が気づいていないだけで、実は子どもたちからは沢山の素敵な「見方・考え方」が表現されているのかもしれない。そんな子どもたちの姿に意味や可能性を感じ、素敵な「言葉がけ」ができるよう、私自身も頑張りたいと感じました。

子どもたちは無能で無知な存在ではなく、有能で可能性に満ち溢れた存在です。この有能さを引き出すことこそ、我々教師が目指すべきものであると思います。

1学期のみなさんの実践や研究、講師の先生方のご指導により、学ばせていただけたことが沢山ありました。本当にありがとうございました。

もうすぐ夏休みです！！しっかりリフレッシュして、中間報告会、2学期の研究を迎えましょう！

